

平福地域づくり協議会
2024年7月5日発行

49
ひらふく
地域づくり
センターだより
<https://hirafuku.net/>

矢中橋を三軒松より望む

協議会長

中野直樹

本年度、3期目の会長を務めさせていただくことになりました。自分自身、もともと怠け者のところがあるので、自分で自分を追い込むことによって突き進むということを繰り返しています。地域づくり協議会の組織改革、また平福地域全体の関係性、運営・活動の見直しなど、みなさまからいただいた宿題の一つひとつ解決に導くことができると考えています。引き続きみなさまのご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

新・副会長

岡田邦雄

さわやかな初夏の季節と成りました。平福地域の皆様には、益々ご壮健にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年度、副会長の大役をお受けする事になりました。地域づくり協議会との関わりは初めてですので、当協議会の事は分からない事が多々ありますが、諸先輩はじめ会長・センター長や各部会と共に、住民相互の交流の促進や地域課題の解決に努力していきたいと思ひます。

日本人の精神性を方向づけたと言われる聖徳太子の十七条憲法、第一条「和を以て貴しとなす」（和を大切にす・話し合いを大切にす）を基本にして、地域の皆様と交流を深めたいと思ひますので、皆様方のご支援とご協力をお願いいたします。

センター長

大嶋啓靖

コミュニティ助成事業のことを知ったのは、センター長になって最初の年（一昨年）の、応募締切1か月前のことでした。地域のコミュニティ活動の促進を目的とする備品購入が、100万から250万まで、10万円単位で助成率100/100。まあ！なんておいしい話。前年度に延吉が助成を受けたことを知り、当時書記委員兼放送部だった山根浩さん（現 延吉自治会長）に教を乞い、自治会長会で内容の一任を取り付け、「まあ当選しないよ」と言われたので、もう遠慮なく思い切り夢を膨らませて申請書を書きました。正直な話、受かるなんて思っなかったんです。

でも受かっちゃいました。（ちなみに昨年度は南新町が受かりました。）おかげで目標ができました。センター長3年目の目標は「これを何とか形にすること」です。申請書に書いた助成申請事業の趣旨・目的を要約するとこんな感じ。「スマホの普及が進み、誰もがクラウドにアクセスできる環境を持つ今、協議会活動の中心にICT活用を据えることで、地域活性化のためのコミュニティ活動の維持と更なる推進を目指す」と。うん、よくわかんない。平たく言うと「みんなでもっとスマホを活用しようよ」って話です。たぶん。

まずは協力してくれる人を募るところから始めようと思ひます。この1年も引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

記憶彩る「モノクロ平福」

文 広報グループ

トップ絵は、南新町クラブの押入れから出てきた古い写真45枚*のうちの1枚を、写真屋さんで大きく、綺麗にしたものです。南新町総会時に見せたら皆さん大盛り上がりでした。探せばもっといろいろな写真が出てくるはず。そこで、そんな懐かしい写真を募集し、みんなで眺めて盛り上がりましょう。この事業を計画しました。

事業内容

- みなさまから集めた写真を選定し、「プリントした写真（2Lサイズ**）」と「データ」にして、協議会で保管します。
- 「プリントした写真」と「データ」は各自治会の集まりなどで貸し出します。

みなさまへのお願い

- 自治会単位で昔懐かしい写真を募集します。（カラーでもモノクロでも）
- 写真選定のため、日程を決めて協議会役員が各自治会集会所におじゃまします。

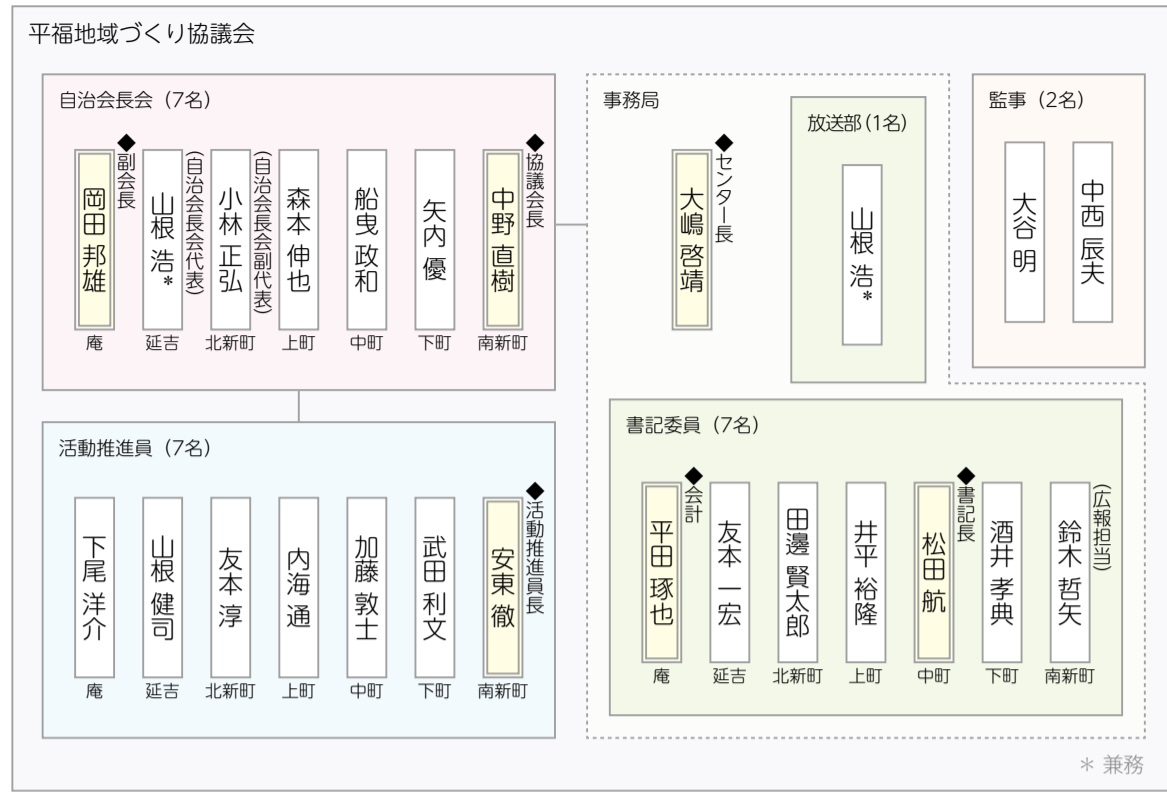
みんなで眺めて、ああったこうだったと、ワイワイ盛り上がりましょう。昔話に花が咲くはずですよ。

* 45枚は全てプリントデータ化済み。右下のQRコードからご覧いただけます。

<https://x.gd/awkwH>

** L判サイズの2倍の大きさ、12.7cm×17.8cm





団体名称	代表者名	地域づくり協議会担当	
		活動推進員	書記委員
福祉連絡会	永井 初美	友本 淳	平田 琢也
消防団	松田 航	内海 通	松田 航
佐用小学校PTA	鈴木 哲矢	友本 淳	鈴木 哲矢
平福文化と観光の会	五名 和雄	内海 通	井平 裕隆
郷土を考える会	矢代 成生	下尾 洋介	友本 一宏
平福ニュースポーツ同好会	内海 静子	山根 健司	田邊 賢太郎
ボランティアグループ	加藤 幸子	内海 通	松田 航
ぐるーぶふくちゃん	安東 忍	安東 徹	鈴木 哲矢
佐用まちづくり塾	春名 政男	武田 利文	酒井 孝典
佐用山城ガイド協会	春名 政男	武田 利文	酒井 孝典
NPO法人ほっとネット373	野村 久雄	内海 通	平田 琢也
(株)かのね	四方田 康次	武田 利文	平田 琢也
平福おもてなし会	黒川 準哉	加藤 敦士	松田 航
平福納涼大会実行委員会	中野 直樹		

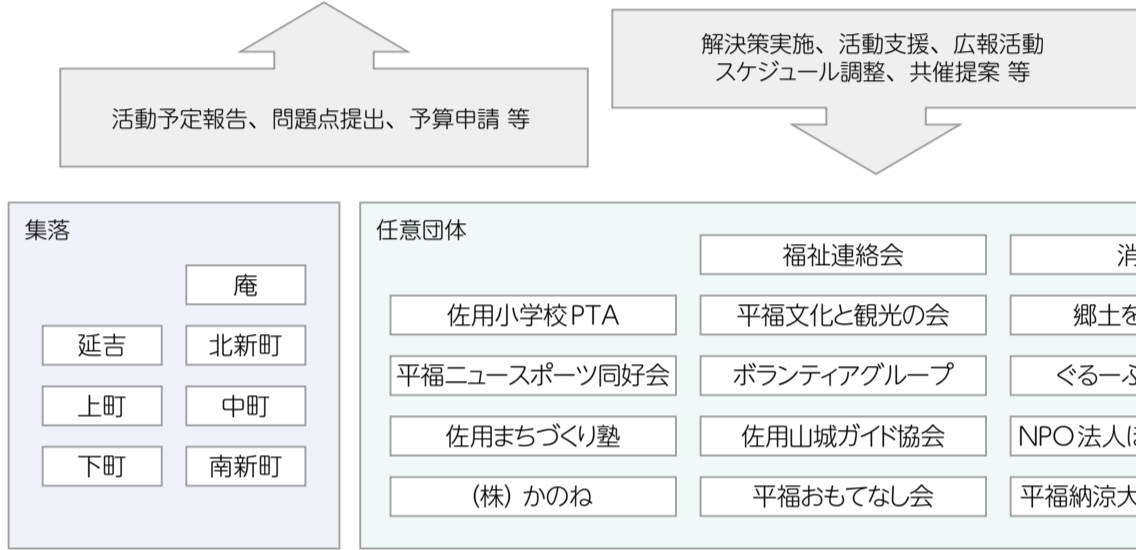
総会資料

5月18日に開催した定時総会の資料を右のQRコードから閲覧できます。
<https://x.gd/2G56S>



活動助成金の申請について(ご案内)資料

各任意団体代表者様に書記委員を通じてお配りしている標記資料は右のQRコードから閲覧できます。
<https://x.gd/4h6CR>



法人化に向けた調査・検討

文 中野直樹

平福地域づくり協議会という組織の限界性について、新たな方策の提案として、「ザ・平福」を目標に、今後、法人化に向けた調査・検討を重ねていきたいと考えています。今はこれ以上言うことのできない状態ではありますが、みなさまにはあたたかい目で見守っていただければと思います。頑張ります!!

ピアノ・エレクトーン有効活用のアイデア募集

文・写真 大嶋啓靖

旧利神小学校の備品を有効活用しようという取り組みの中で、平福地域づくり協議会では、電子ピアノ（ヤマハクラビノーバ CVP-6）とエレクトーン（ヤマハエレクトーン HS-4）を持ち帰りました。これらの有効活用のアイデアを募集します。

実現の可能性はさておいて、アイデアをお持ちの方は大嶋（080-1141-5816）まで。または、「ひらふくみん活」サイトのお問い合わせフォームから。(QR→)



ICT活用勉強会 準備委員会のメンバー募集について

文 大嶋啓靖

平福地域づくり協議会では、現在さまざまな情報をGoogleドライブに集約する取り組みを進めています。また、2013年の組織改革では、協議会や自治会、任意団体のスケジュールをGoogleカレンダーで共有する仕組みを作りましたが、当時はスマホ利用者が少なく、これを活かすにはまだ無理がありました。現在はほとんどの人がスマホを利用しており、情報共有できる環境は整ったと言えます。あとは情報を広めるだけ、とは言え、これらICTを活用するハードルは依然高いままです。

ICT活用勉強会は、地域のICTリテラシーを底上げし、地域の情報共有を円滑にし、ひいては個人レベルで、更なるスマホの有効活用ができるようにな

ることを目的としています。ICT活用勉強会の講師役は元システムエンジニアの大嶋が務めますが、人に教えることは専門外で下手です。最大の要因は「一般の人がわからないこと」が何かがわかっていないこと。そこで、まずは準備委員会を開催し、ICT活用に興味と関心をお持ちの方に集まっていただき、勉強会に参加してもらうことで、参加者には大嶋の持つICT活用のノウハウを、大嶋は参加者のフィードバックから教えるノウハウを、ともに得ようと考えています。準備委員会の日程は未定ですが、決まりましたら回覧などで告知しますので、興味のある方はぜひご参加ください。

ICTとは

Information and Communication Technology の略。情報(information)や通信(communication)に関する技術の総称。日本では同様の言葉としてIT(Information Technology: 情報技術)の方が普及していたが、国際的にはICTがよく用いられ、近年日本でも定着しつつある。

出典：総務省HP

リテラシーとは

読み書き能力。(転じて)ある分野に関する知識やそれを活用する能力。

出典：大辞林4